自動車のナンバー・プレート

志村　良知

３０年余り前、国境を越えてヨーロッパをドライブし、いろいろな国の車とすれ違ったり並んだりした。

ドイツ国境のアルザスに住んでいたので、なじみ深いのはフランスとドイツのものだった。フランス・ナンバーは、２桁～４桁の数字＋アルファベット２文字＋２桁の数字。私の車は５９VT６８で、２桁が並ぶのが格好良いと会社の若い衆にうらやましがられた。最後の２桁は登録県の番号で、６８はオ・ラン県、同じアルザスでもストラスブールがあるバ・ラン県は６７だった。日本では横浜、品川、神戸ナンバーが格好良いといわれるように、フランスでもパリの７５は別格とされた。個人的には映画『TAXI』や『フレンチ・コネクション』のマルセイユの１３も格好良いと思う。

ドイツのシステムでは最初の１から３文字のアルファベットが登録地域・都市を示していた。当然大都市は１文字、３文字は田舎である。Ａはロマンチック街道のアウグスブルク、首都ベルリンはＢ。例外は正式名に『ハンザ同盟都市』を被せて残している都市で、例えばハンブルクはＨをハノーファーに譲って HH だった。最初のＨはハンザ同盟都市の栄光、外せないものだそうである。日本には格好良いとかで中古のドイツ・ナンバープレート愛好家がいるらしいが、飾で付けたりするなら、F、M、S、D などであろう。３文字なら保養地バーデンバーデンの BAD が面白いかもしれない。

夏の北イタリアはドイツナンバーであふれていたが、スイスの観光地は黄色いオランダ・ナンバーと白地に赤い文字のベルギー・ナンバーが多かった。平らな国の人たちは山岳にあこがれるものらしい。

右ハンドルのイギリスのナンバーはオランダに似ていて、黄色地に黒のアルファベットがやたら目立った。アイルランドでは先頭に登録年次が明記されていて、当時景気が良くなったとかで新しい車が多かった。

けしからぬことに、フランスは最近 EU 化でシステムを変えたらしい。フランスらしくない話である。